



# えんじゅ

春日市立春日小学校

校長室便り No.7

令和3年9月6日

文責：校長 福島

## 正しく恐れる ～「潤いのある学校」のために～



1週間のオンライン等学習を経て、今日から子供たちは午前中、学校で学習するように判断しました。笑顔の子供たちに会えるのはやっぱりうれしいものです。しかしながら、今回の判断にはずいぶん葛藤もありました。

デルタ株を中心にした今の感染状況は、夏休み前に比べてとても危険です。これまでと同じ感染対策では不十分であるととらえています。春日市では市の基準をもとに、中学校ブロック単位で感染状況を見ながら対応を検討しています。春日中・須玖小・春日小の現在の状況を踏まえ、3校で今回の対応を判断しました。

職員一同、これまで以上の強い危機感をもって「分散登下校」「時短授業・オンライン授業等」「感染対策を行った給食時間」の3つの対策を中心にした教育活動を進めてまいります。

コロナ禍は、まだまだ続くと思います。今後は対面とオンラインのハイブリッド式の教育活動を進めていこうと考えています。先週1週間のオンライン授業の様子を見て、小さな課題は浮き彫りになりましたが大きな可能性を感じました。教室には数人の子供たちがいて、多数は家庭で授業を受けているのですが、オンラインでつながることによって同じ空間にいるかのような授業が展開できました。子供間の交流や声を出すことも、感染を気にすることなくかえって活発にできている場面も多くみられました。

集団での学びは子供の成長に欠くことができないものです。対面型を徐々に増やしていきながらも、学校に来ることができない状況になった場合にはオンラインをいつでも使えるようにしていきます。学びは止めません。

「潤いのある学校」とは、笑顔・安心・対話がある学校です。安心して来る、行かせることができる学校であるために、感染を正しく恐れ、前に進んでいきます。感染に対する不安は個人や家庭の状況によって異なることは十分理解しております。心配なことがございましたら遠慮なくご相談ください。